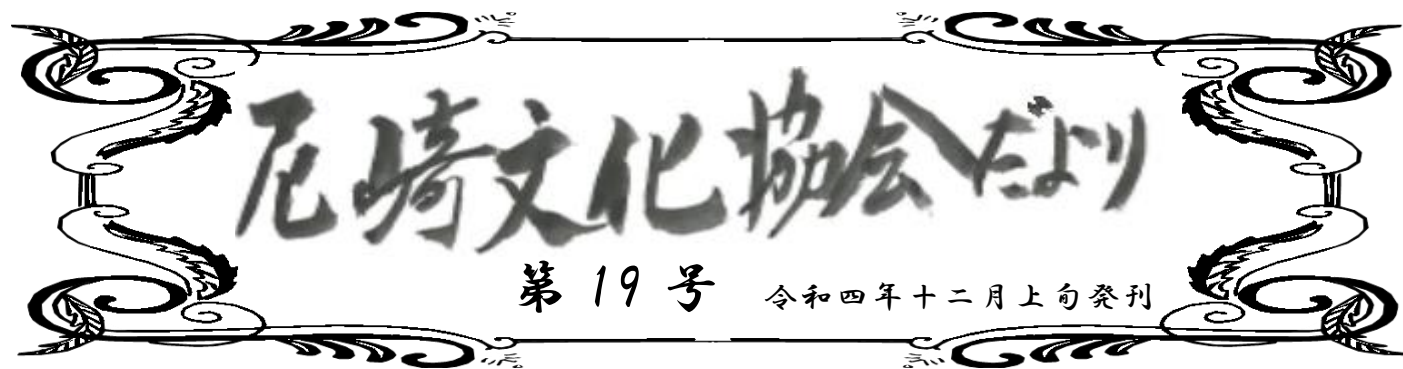




1, 秋の一日研修旅行記

文化の香り～爽秋の丹波路を往く

副会長 宮崎 恒彰

去る令和 4 年 11 月 10 日に、文化協会としては 3 年ぶりの研修バス旅行が開催されました。秋晴れの好天の下、39 名の参加者が JR 尼崎と阪神尼崎からそれぞれバスに乗り込み、一路丹波篠山を目指しました。中国自動車道から舞鶴若狭自動車道へ入り、北上するに従って周囲の山々が色づき、まさに紅葉のシーズンでもありました。

丹波篠山へ到着して、まず最初に、当協会会員青山幸克氏（元篠山藩主で、さらに分家が元尼崎藩主でもあった青山家の後裔）の一方ならぬ世話で、県立篠山鳳鳴高校の青山文庫と、近くの市立青山歴史村を訪問しました。なお、参加者が多く、一度に青山文庫へ入れないので、2 班に分かれて交代で見学しました。

鳳鳴高校では樋口校長先生と、青山文庫を研究しておられる同校OBの久下先生のお出迎えとご説明を受け、普段は一般に公開されていない収蔵庫の中を見せて頂きました。内部はところ狭しと保管棚が並び、青山家から同校が寄贈を受けた貴重な書籍類など 11,000 点を含み、合計約 25,000 点を収納するとかで、そのボリュームと中味に圧倒されました。

保管棚を順に見ていくと、中国の古い字典のほか、日本書紀（寛政 5 年 5 年版）、本居宣長による古事記の注釈書（古事記伝 44 巻）、水戸光圀編纂による大日本史、源氏物語、万葉集注釈書、小説、心学に関わる古文書等々、殆どが江戸時代以前の写本とのことでしたが、とても 1 時間ほどの見学時間では内容を詳しく見る余裕は無く、貴重な書物のタイトルだけを見て時間切れになったのは残念でした。

次の青山歴史村は、藩籍奉還後に寄贈された旧青山家の別邸「桂園舎」や、旧藩士宅の長屋門を移築した建物などで構成されており、解説者の詳しい説明を聞きながら昔の朱印状や版木など展示物を見学した後、デカンショ館でデカンショ節のいわれを解説したビデオを見ました。

そのあと、昼食のため丹波陶芸村のレストランへ行き、旅行支援により補助を受けたので予算に余裕が出来たとかで、これまでの旅行よりワンランク・アップされた？三田肉などをご馳走になり、食後、出発時に旅行社から配られた 3,000 円のクーポン券を使って、丹波のお土産を買った参加者もおられたようです。ただ、時期的に、黒枝豆のシーズンが終わっていたのが残念でした。

午後は、本日 2 番目の訪問地である兵庫陶芸美術館へ行きました。ここは、当協会和田会長のご提案による訪問で、予め車中で会長からご説明を受けて、ルネ・ラリックのガラス工芸品を鑑賞しました。ルネ・ラリックは、19 世紀から 20 世紀にかけてフランスで活躍したガラス工芸家で、アール・デコ（アール・ヌーヴォーの時代に続き、ヨーロッパやニューヨークで、1910 年代半ばから 1930 年代にかけて流行した装飾美術）の、モダン・エレガンスの美と言われるガラスの透明性を活かした新鮮なデザインと、鋳型を駆使した独自の製法によって、彼の作品はアール・デコを象徴する存在となり、今回の展示物は北澤美術館の所蔵品だそうです。精緻で美しいガラス工芸品の数々を堪能しました。

帰途は 3000 円のクーポン券を残していたり、土産物を買いきれない人たちのために、明太子屋へ寄って、予定より若干遅れたものの全員無事に出発地へ帰着し、すがすがしい秋の一日を、文化の香りに包まれて過ごした次第であります。



（兵庫陶芸美術館前での記念写真）

2、令和 4 年通常総会（書面決議）後の行事等

（1）尼崎薪能

令和 4 年 5 月 27 日（金）17 時 30 分から大物川緑地公園野外能舞台にて開催。

参加者 和田会長、玉垣副会長、宮崎副会長、田中事務局長

（2）役員会開催 （以下敬称略）

6 月 9 日（木）午前 10 時から尼崎小田南生涯学習プラザにて役員会を開催。議事

協会だより編集 宮崎 恒彰 田中 正喜